

横 浜 市 会 第3回  
定例会 会 議 錄  
〔 速 報 版 〕

議案関連質疑（令和7年10月23日）

# 速報版

- この会議録は録音を文字起こした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものため、今後修正されることがあります。
- 正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横 浜 市 会

○議長（渋谷健君）これより質疑に入ります。

発言の通告がありますので、これを許します。白井正子君。

〔白井正子君登壇、拍手〕

○白井正子君 日本共産党を代表して、市第41号議案横浜市副市長の選任について質問します。

今回提案されている副市長の選任では女性副市長が不在になり、4人全員が男性となり、市長を含めて行政のトップは全員男性となります。市民からは、ジェンダーバランスに偏りがあると見えます。本市は女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法に基づきWeプランを策定しており、それには、生活密着行政サービスを提供する基礎自治体である本市は、人口の約半数を占める女性の視点も行政運営に生かしていくことが不可欠、多様な人材の多様な視点や発想を生かしていくことで、市民満足度の高い市政の実現を目指すとしています。その取組には女性責任職の積極的な配置が挙げられています。その推進体制の長が全員男性になってしまいます。女性責任職の積極的な配置が進むのか、懸念があります。今回、なぜ女性副市長にしなかったのでしょうか、伺います。

世界経済フォーラムが今年6月に発表したジェンダー・ギャップ指数では、日本の順位は148か国中118位で、ジェンダー不平等が表れています。今、多くの国々がジェンダー平等でこそ個人の尊厳が大切にされるとともに社会も企業も経済も元気になるという方向に進み、実際にこれらの国々の経済は日本よりも大きく成長し、日本もジェンダー平等社会へと本気で変わるべきです。まさに、ジェンダー平等の推進は時代の要請です。あらゆる分野で計画、法律、政策などをジェンダーの視点で捉え直し、全ての人の人権を支える仕組みを根底からつくり直していくことが求められています。そのためにも、あらゆる場面で女性の参画を進めることが必要です。日本のジェンダー・ギャップ指数が低いのは特に政治と経済の参画の分野であり、意思決定の場に女性を増やすことはジェンダー平等を進めるために欠かせません。

本市の現行の中期計画には、戦略に誰もがいきいきと生涯活躍できるまちづくりが挙げられ、その政策にジェンダー平等の推進が挙げられ、具体策の一つとして女性管理職登用を加速させるとしています。この女性管理職登用については、経営責任職のうち部長級の女性人数は10年前の2.5倍に伸びていますが、区長と局長の女性人数は現状では10人に届いておらず、山中市長就任以前よりも減少しており、加速どころか後退しています。区長と局長の女性人数が減少していることをどのように認識しておられるのか、また、女性管理職登用の加速をどのように実現していくのか、伺って、終わります。（拍手）

○議長（渋谷健君）山中市長。

〔市長 山中竹春君登壇〕

○市長（山中竹春君）白井議員の御質問にお答えします。

市第41号議案について御質問をいただきました。副市長の人選についてですが、副市長は本市におけるトップマネジメントとして様々な重要施策の実現に向け市役所全体をまとめていく重要な役割を担っております。そのため、人選に当たりましては適材適所となるようふさわしい人材を選出して御提案をさせていただきました。

区局長級の女性人数と女性管理職の登用についてですが、区局長級の女性職員については、私が就任した令和3年時点の10名から今年10月現在の9名まで、おおむね横ばいとなっております。一方、次の区局長級の候補となる部長級についてですが、部長級については就任時は39名でしたが、現在は80名と2倍以上に増加しております。過去10年と比較して経営責任職への女性の登用は大きく進んでおります。今後も、多様な発想や経

験、また多角的な視点を本市の政策に生かしていくため、優れた人材の登用を積極的に進めてまいる所存です。

以上、白井議員の御質問に御答弁を申し上げました。

○議長（渋谷健君）以上で質疑は終了いたしました。

# 速報版